

Web2.0時代のNECの新サービス・技術への取り組み

白石展久

要旨

2005年頃から、Google Mapsをはじめとした、Web2.0のマッシュアップによるサービスが話題となっています。Web2.0は、今やコンシューマに対して純粋に「面白い」サービスを提供する段階を超え、ソフトウェア、サービス、SI、開発手法などにも様々なインパクトを与えており、ソフトウェア開発企業の開発スタイルや、製品・サービス戦略は、大きな変革を迫られています。NECでは、Web2.0を意識した、さまざまな活動を進めています。本稿では、Web2.0時代において企業に求められる開発スタイルや、製品・サービス戦略を考察し、NECで取り組んでいるWeb2.0的な活動を紹介します。

キーワード

●Web2.0 ●集合知 ●SaaS ●マッシュアップ ●Enterprise2.0 ●SLATES

1. まえがき

2005年頃から「Web2.0」という単語を耳にする機会が多くなりました。Web2.0は、当初はGoogle Mapsをはじめとしたコンシューマ向けの「面白い」サービスとともに注目を集めました。現在では、ビジネススタイル、製品・サービス戦略、そしてソフトウェアの開発スタイルに、大きな影響を与えようとしています。

2. Web2.0とは

2.1 Web2.0の概念

Web2.0の概念については、O'Reilly社のCEOであるTim O'Reillyの論文「What Is Web2.0」¹⁾に詳しく記されています。2004年秋より始まったWeb2.0 Conferenceによって、Web2.0というキーワードはIT業界に急速に知られることとなりました。

Web2.0のコンセプトを図1に示します。Tim O'Reillyは、「What Is Web2.0」のなかで、Web2.0のコアエッセンスとして以下の7つを挙げています。

- (1) Webプラットフォーム
- (2) 集合知の利用
- (3) サービスのコアデータの所有
- (4) サービスとしてのソフトウェア提供(SaaS)
- (5) ソフトウェアの簡単な再利用(マッシュアップ)
- (6) デバイスフリー
- (7) リッチユーザインタフェース

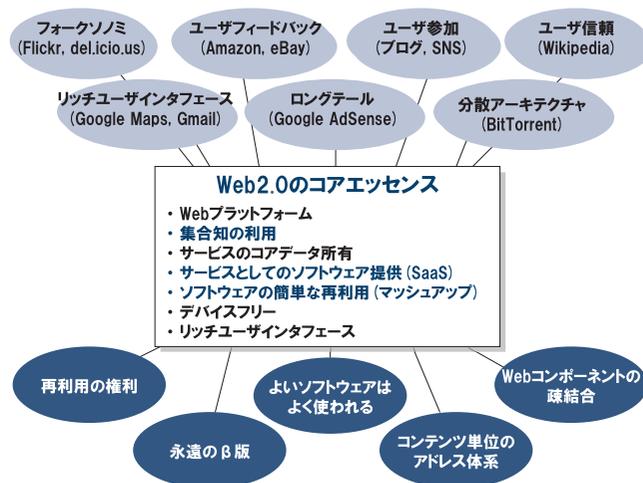


図1 Web2.0の概念(文献1)を参考に作成)

本章では、上記のうち、「集合知の利用」「サービスとしてのソフトウェア提供(SaaS)」「ソフトウェアの簡単な再利用(マッシュアップ)」の3つに焦点を当てます。

2.2 集合知の利用

ブログやWikipediaのような、ユーザが自由に情報を書き込み、発信できる場によって、情報はCGM(Consumer Generated

Media)として、管理者に厳密に管理されずとも、自身で成長を続けていきます。「集合知」と呼ばれるこのような情報を積極的に利用するのが、Web2.0の大きな特徴です。

2.3 サービスとしてのソフトウェア提供(SaaS)

従来、ソフトウェアのユーザへの提供は、ユーザへソフトウェアの実体を「リリースする」という形で行われてきましたが、Web2.0では、ソフトウェアはその実体ではなく、そのソフトウェアによる「サービス」が、ユーザが利用できる形で提供されます。SaaS(Software as a Service)と呼ばれるこのスタイルは、ソフトウェアの開発から公開までのサイクルを大幅に短縮するとともに、ソフトウェアビジネスモデルを大きく変化させます。

2.4 ソフトウェアの簡単な再利用(マッシュアップ)

Web2.0では、各サービスで提供される機能は、簡単に再利用可能な形で提供されます。たとえば、Google Mapsは、AJAXという技術を使ったシンプルなインタフェース仕様であるため、ユーザはGoogle Mapsのインタフェースを使って、簡単に独自のサービスを作って、公開することができます。RSSも同様で、そのデータ形式やプロトコルが単純なので、ユーザはRSSの情報を使った様々なアプリケーションを、容易に開発することができます。このような単純なインタフェースによって、既存のサービスをベースにして新しいサービスを作る方式は「マッシュアップ」と呼ばれ、Web2.0を特徴づける開発手法です。

3. Web2.0が企業にもたらす影響

このようなWeb2.0という新しい概念は、企業にとって、どのような影響をもたらすのでしょうか。

3.1 Enterprise2.0とSLATES

Web2.0の7つのエッセンスのうちの多くはソフトウェアの作りに関するものですが、「集合知の利用」のように、一般の企業活動にとっても重要な項目もあります。企業がその活動を遂行するに当たり、社員の「集合知」を活用する手段とし

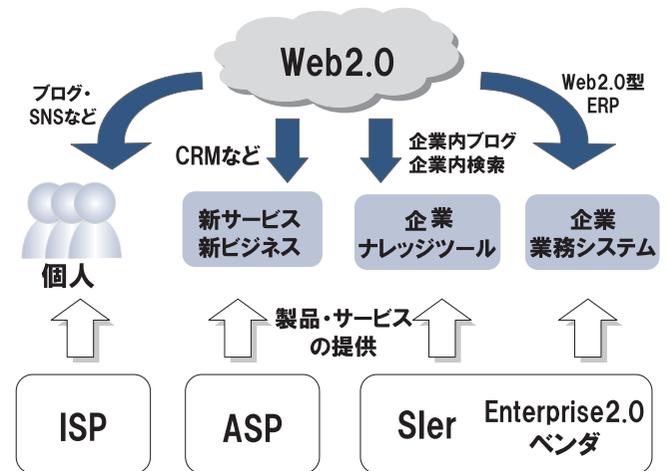


図2 ソフトウェアビジネス観点から見たWeb2.0

て、Wikiやブログを活用するケースが徐々に増えています。企業のワークスタイルのWeb2.0化や、それらを実現するシステム群は「Enterprise2.0」と呼ばれます。Harvard Business SchoolのAndrew McAfeeは、Enterprise2.0を特徴づける要素として、Search(検索)、Links(リンク)、Authoring(情報発信)、Tags(タグ付け)、Extensions(拡張性)、Signals(通知)の6つを挙げています。これらは、各々の頭文字を取り、SLATESと呼ばれます。

Web2.0は、企業の業務システム、ソフトウェア開発スタイル、そして消費者の生活に至るまで、様々なシーンに影響を及ぼします(図2)。

ソフトウェア開発企業は、このようなWeb2.0のユーザへの影響を敏感にキャッチし、ISP的な観点、ASP的な観点、Sler的な観点、そしてEnterprise2.0ベンダ的な観点から、ユーザのWeb2.0ニーズに対して、製品やサービス、ソリューションを提供していく必要があります。

3.2 Web2.0のソフトウェア開発スタイル

Web2.0では、長い時間をかけて完成度の高いソフトウェアを開発してから提供するのではなく、ソフトウェアをサービスとして提供すること(SaaS)により、ベータ版をいち早くユーザに提供し、ユーザからのフィードバックを得ながら、短いサイクルで継続的な改善を繰り返して、最終的に完成度の高いサービスを提供します。このような手法は、小回りのきく

Web2.0時代のNECの新サービス・技術への取り組み

ベンチャー企業が得意とする手法ですが、ソフトウェア開発企業にとっては、このような手法にどう対応していくべきかが、大きな課題です。ソフトウェアの開発現場では、徹底した情報共有によって集合知を蓄積し、それを活用することによって、アイデア立案とソフトウェア開発を効率化し、既存のソフトウェアを簡単に組み合わせる新しいソフトウェアを開発すること(マッシュアップ)によって、ソフトウェアの開発スピードを加速する必要があります。そして、開発したソフトウェアは、ソフトウェア実体のリリースではなくサービスとしてユーザーに提供すること(SaaS)によって、ソフトウェアのユーザーへの提供を早めるとともに、ユーザーのソフトウェアへのフィードバックを加速する必要があります。

4. NECにおけるWeb2.0アクティビティ

NECでは、すでに様々なWeb2.0的な活動を進めています。そのいくつかをご紹介します。

4.1 Web2.0タスクフォースとWeb2.0ソフトウェア基盤

NECでは、「Web2.0タスクフォース」(仮称)というタスクフォースで、Web2.0時代に向けたNECとしてのビジネス戦略の検討を行っています。その成果の一部として、「SpikeSource コアスタック」という、オープンソースソフトウェアによって構成されるソフトウェア基盤を、製品ラインナップに加えています。

4.2 社内ブログでのブレインストーミング

NECの社内ブログ「イノベーションカフェ」には、多くの社員が参加しています。この「イノベーションカフェ」上では、日常の様々な話題から、世の中の技術動向や、今後の会社としての進むべき方向性など、様々な議論が行われていますが、そのなかで、Web2.0的な、いろいろな新しいサービスアイデアのブレインストーミング的な議論も活発に行われています。そこから出たアイデアのうちのいくつかは、次節で触れる「社内仮想組織」の有志のメンバーでプロトタイプが開発され、社内実験公開されています。

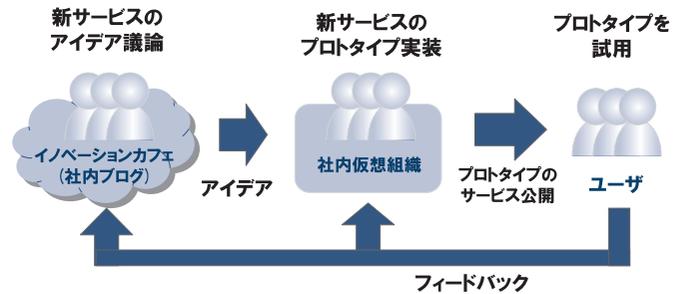


図3 社内ブログでの議論と社内仮想組織でのプロトタイプ

4.3 Web2.0サービスの創出活動

NECでは、Web2.0的なサービスの、迅速なプロトタイプ開発と社内実験公開を行うための「社内仮想組織」があり、コアメンバと有志の参加メンバで活動しています。この仮想組織では、社内ブログでのブレインストーミングで出たWeb2.0サービスのアイデアや、社内仮想組織の有志参加者自身のWeb2.0サービスのアイデアを、Web上のサービスとして、OSSなどを利用して迅速に実装し、社内実験サービスとして、社内Web上で社員が自由にトライアルできる形で公開しています(図3)。

このようなスキームで生み出された、Web2.0サービスのプロトタイプを、以下にいくつかご紹介します。

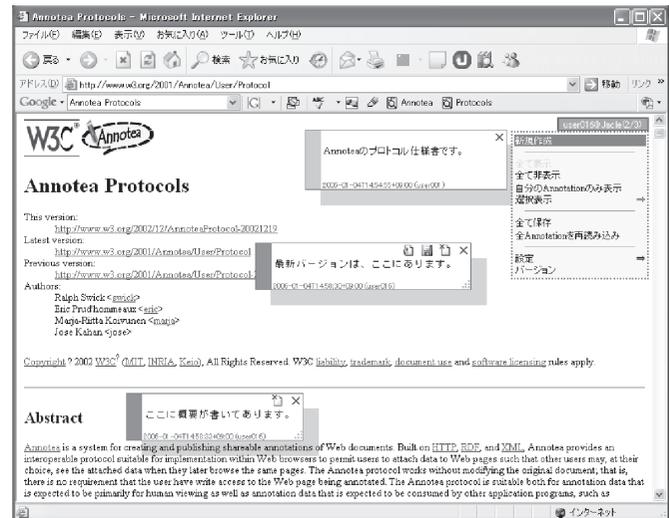


図4 Webコラボレーションシステム「JACLE」

(1) Webコラボレーションシステム「JACLE」

Webコラボレーションシステム「JACLE」(図4)は、任意のWebページに、誰でもコメントを書いた「付箋」を貼り付けることができるシステムです。³⁾

JACLEでは、一般のWebページに複数の人が付箋を貼り付けて互いに参照できるので、ドキュメントレビューなどの協調作業や、Webページ内のある特定の箇所にJACLEの付箋を貼り付けることによる、より詳細なブックマークとしての情報共有など、様々な集合知を蓄積するツールとして利用できます。JACLEは、W3Cで検討されているWeb情報へのメタ情報付与システムAnnoteaを使って実装されています。

(2) ユビキタスメモ

ユビキタスメモは、「誰でも簡単な操作で、今いるその場に様々な情報を貼り付け、取り出すことができる」というコンセプトで開発されているシステムです。このコンセプトに向けた第1次プロトタイプとして、現在、PC上のWebブラウザや携帯電話から、地図上に自由に情報を貼り付け、Webブラウザからそれらを参照したり、携帯電話のGPS機能を使用して、現在いる場所の近くに貼り付けられた情報を

を閲覧したりすることができるシステム(図5)を試作し、応用を進めています。

(3) 共同翻訳システム

共同翻訳システムは、集合知を用いて、Web上の言語の壁を取り払うことを目的としたシステムです。外国語で書かれたWebコンテンツを自動翻訳し、その翻訳結果の訳文をWikiのように誰もが編集可能にすることで、自動翻訳の間違いや不自然さを解消した、より自然な形でのWebコンテンツの多言語化を実現します。

今後は、これらの社内仮想組織での開発成果は、NEC社内のみでなく、社外にも公開し、社外のユーザからのフィードバックも、サービスアイデアの立案やプロトタイプ開発に生かす方向で、準備を進めています。

5. むすび

Web2.0は、今やソフトウェアの開発スタイルのみでなく、企業の業務システムから消費者の生活に至るまで、様々なシーンに影響を及ぼしています。NECでは、本稿で紹介したWeb2.0活動をさらに促進し、ユーザのWeb2.0に対するニーズに応えることができる製品やソリューションを、いち早く提供できるよう取り組んでまいります。

参考文献

- 1) Tim O'Reilly; What Is Web 2.0
<http://www.oreillynet.com/lpt/a/6228/>
- 2) 「Web2.0: 次世代ソフトウェアのデザインパターンとビジネスモデル」(1)の邦訳
<http://japan.cnet.com/column/web20/story/0,2000055933,20090039,00.htm>
- 3) 白石; 「Annoteaによるコラボレーションシステム「JACLE」」
http://www.net.intap.or.jp/INTAP/s-web/data/17-20060127_sw/04-01_shiraishi.pdf

執筆者プロフィール

白石 展久
ビジネスイノベーションセンター
主任



図5 ユビキタスメモ